



2027年3月期 第1四半期

決算説明資料

ヨネックス株式会社

証券コード:7906

2026年8月10日

1. 2027年3月期 第1四半期決算	3
2. セグメント概況	7
3. 2027年3月期 業績予想	14
4. トピックス	15
5. Appendix	18

売上高

454億円

前年同期比
+14.1%

営業利益

68億円

前年同期比
+9.4%

親会社株主に帰属する
四半期純利益

55億円

前年同期比
+31.9%

売上高

- スポーツ市場が堅調に推移する中、国際大会における当社契約選手の活躍により当社製商品への注目がさらに高まったことに加え、円安に伴う為替換算の影響が大きく増収
- バドミントンはアジアに加え、ヨーロッパ等、幅広い地域の選手の活躍により競技の裾野が拡大
- テニスは、当社契約選手の活躍によるブランド認知拡大とともに、「Head-to-Toe(頭からつま先まで)」提案により、用品全体への注目もあり販売が伸長

営業利益

- グローバルでのマーケティング投資強化に伴う広告宣伝費や、人件費等の販管費が増加
- 増収による粗利増加が販管費の増加を上回り増益

一 連結業績

(百万円)

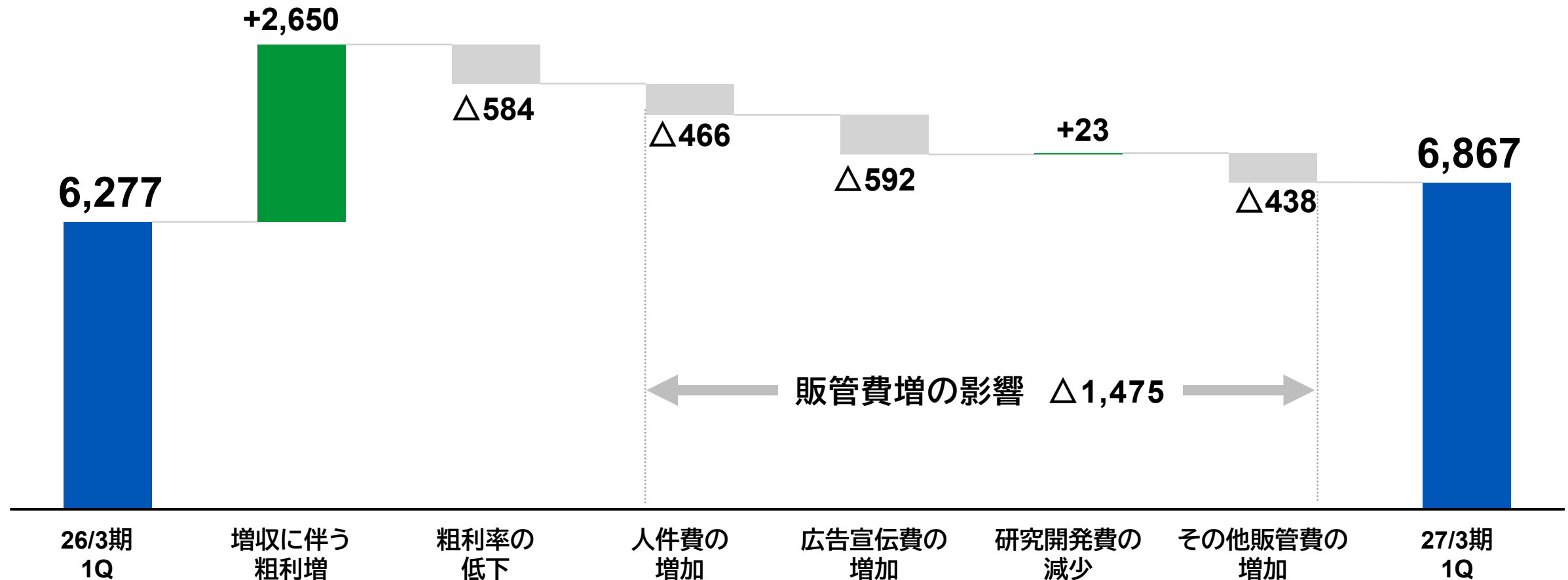
	2026年3月期 1Q 実績	2027年3月期 1Q		増減率 (増減額)	2027年3月期 予想※	
		実績	売上比		上期	通期
売上高	39,856	45,468	—	+14.1% (+5,611)	90,500	181,000
売上総利益	18,823	20,888	45.9%	+11.0% (+2,065)	—	—
販管費	12,546	14,021	30.8%	+11.8% (+1,475)	—	—
営業利益	6,277	6,867	15.1%	+9.4% (+590)	10,500	18,900
経常利益	5,954	7,096	15.6%	+19.2% (+1,141)	10,800	19,100
親会社株主に帰属する 四半期純利益	4,237	5,590	12.3%	+31.9% (+1,352)	8,100	14,200
1株当たり四半期純利益	49.60円	65.34円	—	+15.74円	94.68円	165.98円

※ 2026年8月10日修正値

一 連結営業利益 増減分析

増収により粗利が増加。粗利率は、前年の高水準の反動と原材料価格の上昇により低下。販管費はグローバルでのマーケティング投資強化による広告宣伝費や人件費が増加。粗利増加が販管費増加を上回り、営業利益は増益

(百万円)



一 連結貸借対照表

売上伸長に伴い売上債権が増加。また、中国子会社で販売の増加ペースが落ち着いたことにより棚卸資産が増加

● 資産

	2026年3月末	2026年6月末	増減額
現預金	34,312	33,646	△666
受取手形・売掛金	22,655	24,370	+1,715
棚卸資産	24,196	27,580	+3,384
有形固定資産	37,423	37,627	+203
無形固定資産	1,452	1,559	+106
その他	8,580	8,669	+88
資産合計	128,620	133,453	+4,833

● 負債・純資産

(百万円)

	2026年3月末	2026年6月末	増減額
買掛金	11,115	10,658	△457
有利子負債	17,402	17,711	+309
その他	19,362	19,428	+65
負債合計	47,880	47,798	△81
自己資本	80,493	85,405	+4,911
非支配株主持分	247	249	+2
純資産合計	80,740	85,654	+4,914
負債純資産合計	128,620	133,453	+4,833

セグメントの概要

日本・アジア・北米・ヨーロッパの4つの地域別セグメントから成るスポーツ用品事業と、スポーツ施設事業で構成

(百万円)

セグメント		2027年3月期1Q 実績		連結売上高 構成比	業績計上対象	
		売上高	営業利益		販売	製造
スポーツ用品 事業	日本	17,481	2,248	38.4%	・ヨネックスジャパン(日本国内向け) ・海外代理店向け※	・新潟工場 ・東京工場 ・ヨネックス精機
	アジア	23,714	4,098	52.2%	・ヨネックス中国 ・ヨネックス台湾	・ヨネックス台湾 ・ヨネックスインド ・ヨネックステクニファイバー (タイ)
	北米	2,215	9	4.9%	・ヨネックス北米 (アメリカ・カナダ)	
	ヨーロッパ	1,851	224	4.1%	・ヨネックスドイツ ・ヨネックスイギリス	
スポーツ施設事業		205	41	0.4%	・カントリークラブ、ゴルフ練習場、 テニスクラブの運営	

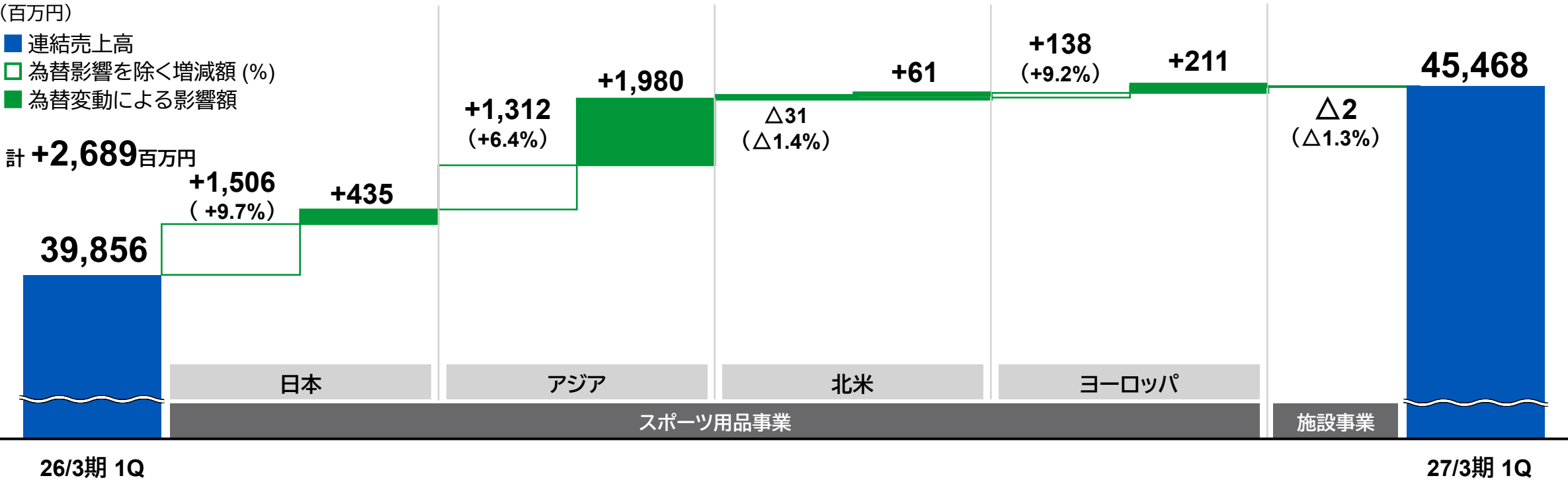
※ 代理店を経由して販売している地域:東南アジア・インド・韓国・フランス・オーストラリア等

セグメント別売上高への為替影響

すべての通貨で円安が進行し、連結売上の増収に寄与。北米セグメントは現地通貨ベースでは微減となったものの、円換算では為替効果により増収

● 為替レート

	1RMB	1TWD	1USD	1EUR	1GBP
26/3期 1Q（1-3月）	20.94円	4.64円	152.59円	160.50円	192.13円
27/3期 1Q（1-3月）	22.65円	4.95円	156.86円	183.64円	211.56円
前年同期比	+8.2%	+6.7%	+2.8%	+14.4%	+10.1%



ー スポーツ用品事業 日本

売上高

17,481百万円

前年同期比
+12.5%

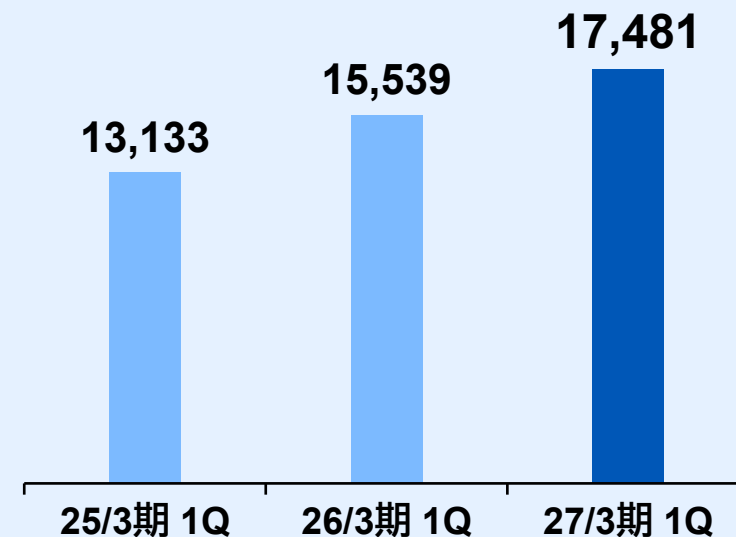
国内

バドミントン用品は需要が堅調に推移し、前年同期の高い水準をさらに上回る。春の需要期も販売を下支え。テニス用品も、年初発売の新製品効果により、前年同期の高い水準を維持

海外代理店

国際大会での当社契約選手の活躍や競技の盛り上がりを背景に、アジア・ヨーロッパを含む幅広い地域で販売が増加し、大幅増収

(百万円)



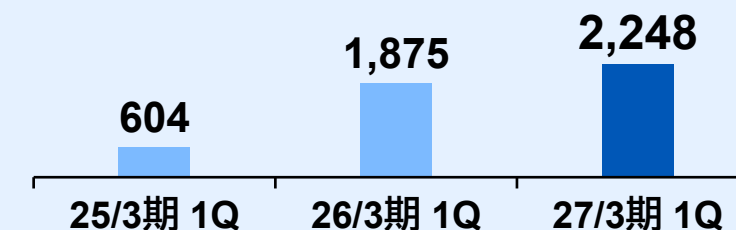
営業利益

2,248百万円

前年同期比
+19.9%

人件費や広告宣伝費等の増加により販管費は増加したものの、増収に伴う粗利の増加がこれを上回り増益

(百万円)



ー スポーツ用品事業 アジア

売上高

23,714百万円

前年同期比
+16.1%

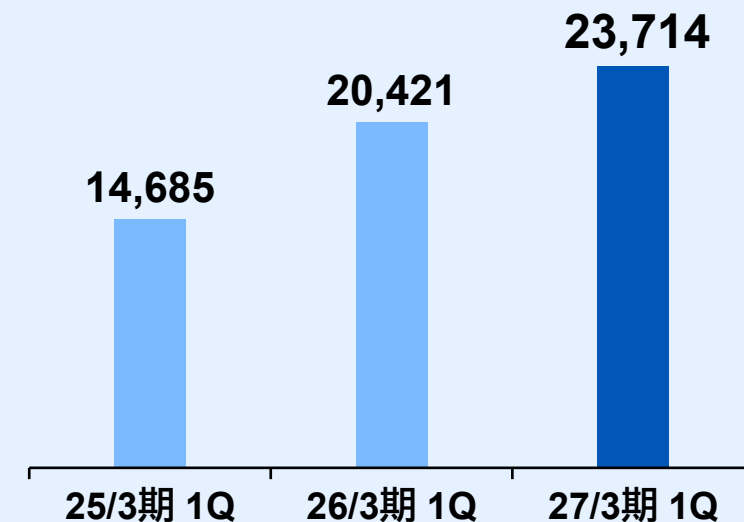
中国

バドミントン用品の需要は底堅く推移し、前期までの大幅な伸長から成長ペースは落ち着いたものの、販売は増加。ウェア・バッグ等のその他用品も引き続き伸長。加えて、円安に伴う為替換算の上押しもあり、増収

台湾

台湾では、バドミントンが盛んにプレーされ市場は安定的に推移し、為替換算の上押しもあり増収

(百万円)



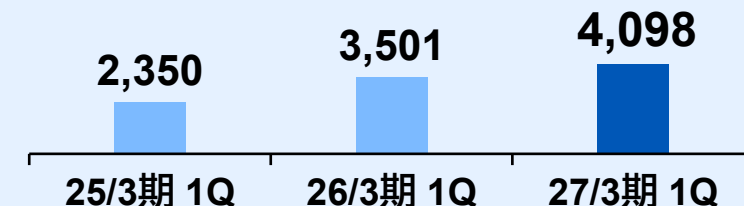
営業利益

4,098百万円

前年同期比
+17.0%

販管費はマーケティング投資強化に伴う広告宣伝費や人件費等が増加したものの、粗利の増加が上回り増益

(百万円)



● 為替レート

2025年1-3月 2026年1-3月 前年同期比
1RMB **20.94円** → **22.65円** **1.71円** 円安

2025年1-3月 2026年1-3月 前年同期比
1TWD **4.64円** → **4.95円** **0.31円** 円安

— スポーツ用品事業 北米

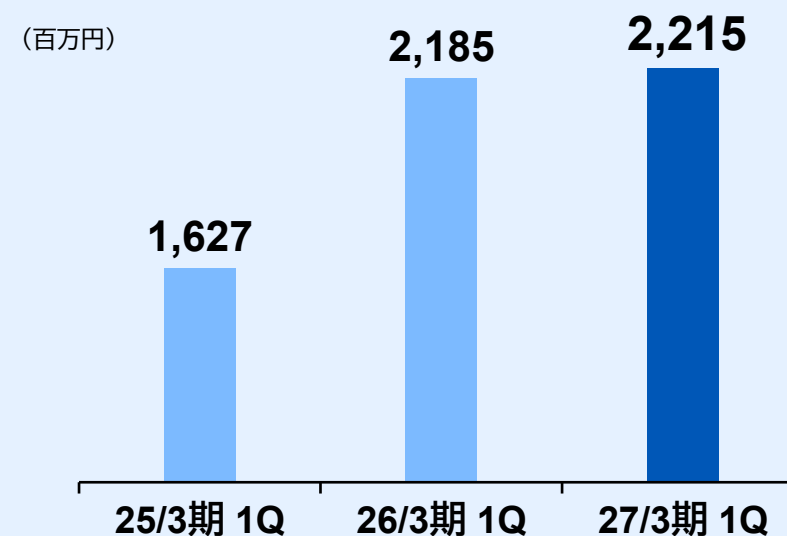
売上高

2,215百万円

前年同期比
+1.4%

テニス用品は、前年同四半期の高い水準を維持し堅調に推移。バドミントン用品は、ラケットの販売が増加した一方、全体では前年同四半期並み。北米セグメント全体では現地通貨ベースで微減となったものの、円安に伴う為替換算の影響により、売上高は前年同四半期をわずかに上回り、増収

(百万円)



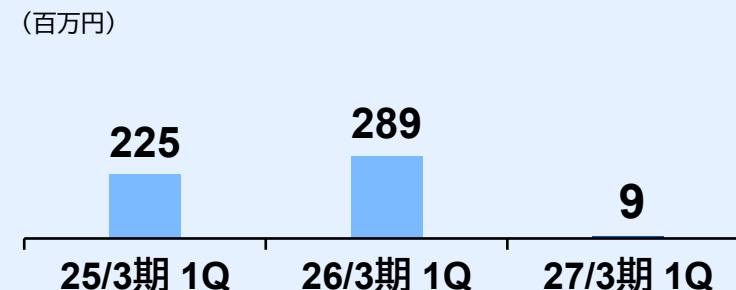
営業利益

9百万円

前年同期比
△96.6%

GGs重点地域としてのマーケティング投資強化に伴う広告宣伝費及び人件費等の増加により販管費が増加し、大幅減益

(百万円)



● 為替レート

	2025年1-3月	2026年1-3月	前年同期比
1USD	152.59円	156.86円	4.27円 円安

ー スポーツ用品事業 ヨーロッパ

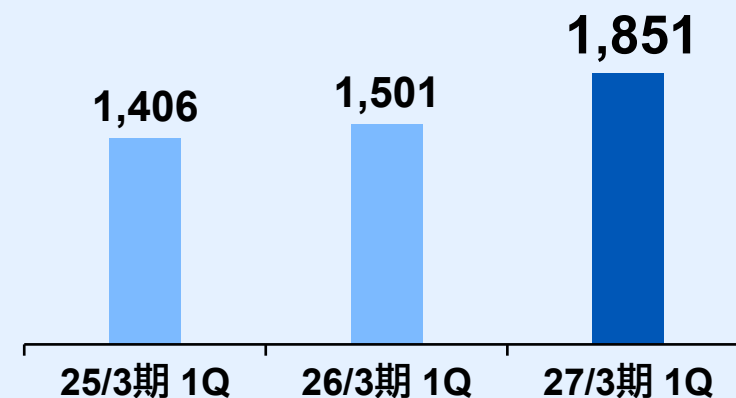
売上高

1,851百万円

前年同期比
+23.3%

バドミントン用品の販売が堅調に推移したことに加え、契約選手の活躍によるブランド認知の向上もあり、テニス用品の販売が伸長。ヨーロッパセグメント全体では、販売の増加に加え、円安に伴う為替換算の影響もあり、売上高は大きく増加。

(百万円)



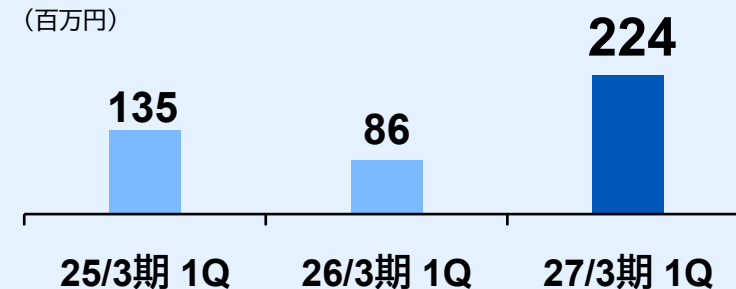
営業利益

224百万円

前年同期比
+161.4%

売上高の増加に伴い売上総利益が増加。販管費は人件費や広告宣伝費等が増加したものの、売上総利益の増加がこれを上回り、増益。

(百万円)



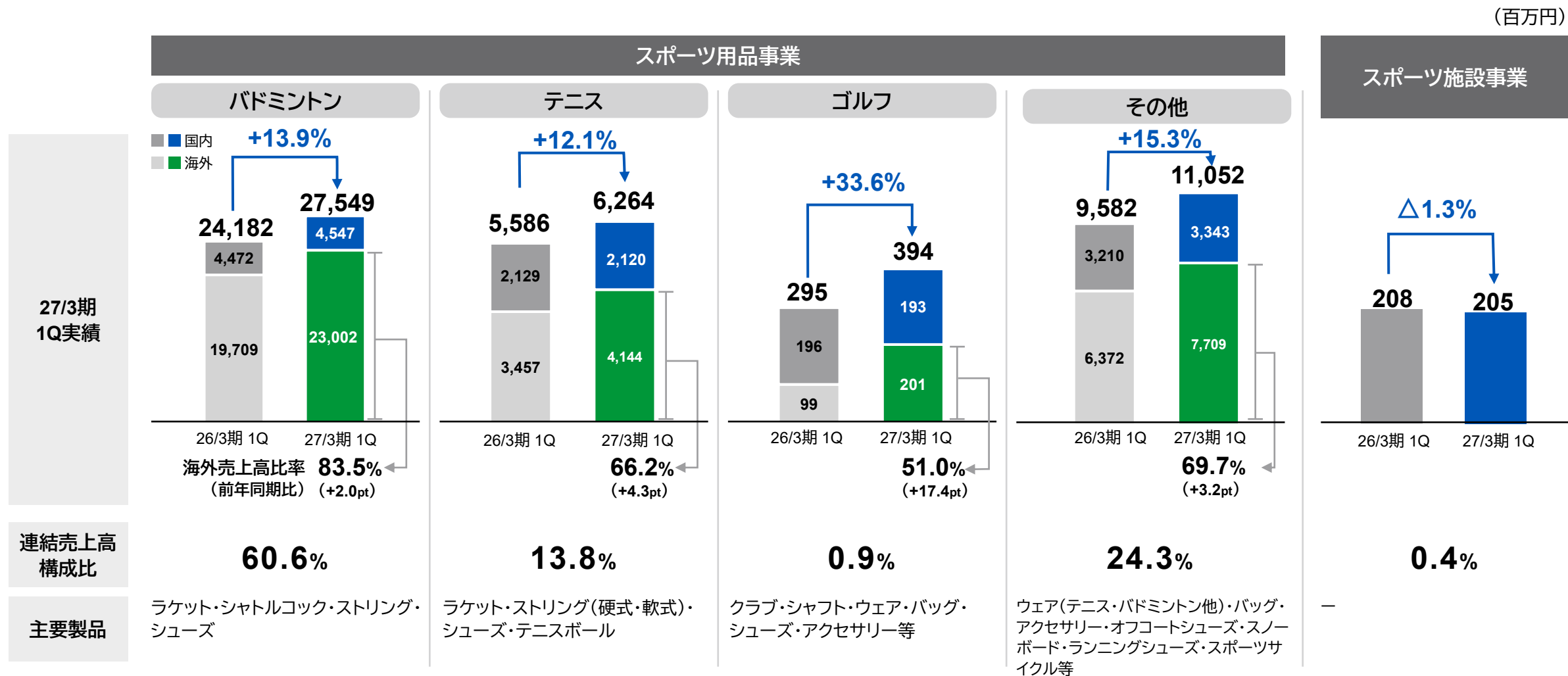
● 為替レート

	2025年1-3月	2026年1-3月	前年同期比
1EUR	160.50円	183.64円	23.14円 円安

	2025年1-3月	2026年1-3月	前年同期比
1GBP	192.13円	211.56円	19.43円 円安

— 種目別売上高

スポーツ用品事業では、主要市場である海外の販売が伸長し、すべての種目で増収。「Head-to-Toe」での提案強化で、シューズやウェアの売上が増加



※ 海外代理店向け販売は、海外売上高に含む

— 2027年3月期 業績予想(上方修正)

2026年5月12日に公表した業績予想を上方修正。今後もスポーツ市場の堅調な推移を見込む一方、地域ごとの需要動向や外部環境は慎重に見極める

● 修正の理由

第1四半期は、日本セグメントで海外代理店向け販売が想定を上回って推移したことや、中東情勢の不透明な状況を踏まえ販管費を計画に対して抑制したことなどにより、売上高・各段階利益ともに5月公表の予想を上回って進捗

● 予想の前提

- ・足元の為替変動を踏まえ、想定為替レートを一部円安方向に見直し
- ・グローバル成長戦略(GGS)で掲げた成長に向けた戦略的投資を継続

● 為替レート (期中平均) (円)

	26/3期 実績	27/3期 前回予想	27/3期 今回予想
1RMB	20.81	22.5	23.0
1TWD	4.79	4.9	4.9
1USD	149.70	155	155
1EUR	168.99	180	180
1GBP	197.24	205	210

(百万円)	前回予想(5/12公表)		今回予想		対前回予想増減額		参考(2026年3月期比較)	
	上期	通期	上期	通期	上期	通期	通期実績	今回通期予想 対前年増減率
売上高	89,000	178,000	90,500	181,000	+1,500	+3,000	163,643	+10.6%
営業利益	9,500	17,800	10,500	18,900	+1,000	+1,100	16,546	+14.2%
営業利益率	10.7%	10.0%	11.6%	10.4%	+0.9pt	+0.4pt	10.1%	+0.3pt
経常利益	9,400	17,600	10,800	19,100	+1,400	+1,500	16,316	+17.1%
親会社株主に帰属する 当期純利益	7,100	13,200	8,100	14,200	+1,000	+1,000	12,092	+17.4%

ー バドミントン:トマス杯／ユーバー杯2026 中国(男子)、韓国(女子)が優勝

男女別の国・地域別団体戦がデンマークで開催され、男子は中国、女子は韓国が優勝。

トマス杯・ユーバー杯2026

(2026年4月24日～5月3日／デンマーク・ホーセンス)

男女別の国・地域別団体戦で、男子(トマス杯)は中国が通算12回目、女子(ユーバー杯)は韓国が3回目の優勝を飾った。

男子は中国の強さに加え、フランスが強豪を破って決勝に進出し、準優勝と健闘。

女子は韓国が激戦を制して4年ぶりの頂点に。



▲トマス杯:中国



▲ユーバー杯:韓国

グローバル成長戦略(GGS)の視点

- 男子はフランスが強豪を破り準優勝と健闘。競技の裾野拡大を象徴
- 欧州勢の躍進は、バドミントンの地理的な広がり(Geographic footprint)を示す

▲地域構成(Geographic Footprint)

決勝トーナメント進出チームの
約**75%** が
当社ウェアを着用

▲Head-to-Toeの取り組み

ー テニス:ウィンブルドン2026 チームヨネックスの活躍

リンダ・ノスコバ選手が自身初のグランドスラム(GS)優勝。チームヨネックスは15種目中、5種目でタイトルを獲得

優勝

女子シングルス

リンダ・ノスコバ選手
(チェコ)

チェコ選手同士の決勝を制し、21歳で自身初のGS優勝。当社のジュニアプログラム「Vamos J」に参加するなど、長くともに歩んできた新星がタイトルを獲得。ラケットからウェア、シューズまでHead-to-Toeでヨネックスを使用。



優勝

車いす男子シングルス

小田凱人選手
(日本)

チームヨネックス同士の決勝を制し、本大会1セットも落とさず2連覇。20歳で通算10度目のGSシングルス優勝。



優勝

男子ダブルス

ハリ・ヘリオバーラ選手
(フィンランド)

2度目のウィンブルドン優勝(2024年以来)。今季はダブルス世界1位にも到達。



チームヨネックス 5種目で優勝

女子シングルス	Linda Noskova (CZE)
男子ダブルス	Harri Heliovaara (FIN)
車いす男子シングルス	Tokito Oda (JPN)
車いす男子ダブルス	Alfie Hewett / Gordon Reid (GBR)
ジュニア男子シングルス	Jordan Lee (USA)

注目トピック

- ✓ 女子シングルスにチームヨネックスが席巻
ベスト16にチームヨネックス選手9名が進出。
- ✓ 2026GSは、チームヨネックス選手が女子シングルス2大会制覇
全豪のルバキナ選手に続きウィンブルドンでノスコバ選手も優勝。女子はHead-to-Toeのチームヨネックス選手が、二つのGS制覇。
- ✓ ジュニア男子シングルス決勝は“チームヨネックス対決”
16歳のJ.リー選手がC.ヒューイット選手をフルセットで破り優勝。予選から勝ち上がった快挙。

ー テニス:新シリーズラケット「MUSE(ミューズ)」発売

ラリーに集中できる“扱いやすさ”を追求した新シリーズテニスラケットMUSE(ミューズ)2026年4月発売

MUSE



製品情報 ▶ <https://www.yonex.co.jp/news/2026/3679.html>

キーメッセージ
「余計なことは忘れて、ラリーに没頭しよう」



- プレーに余計な意識を向けることなく、自然にラリーへ集中できる優れた操作性
- 新構造「シンクロフレーム」による広いスイートエリア、均一な打球感、スムーズな操作性

MUSE
カプセルコレクション



バッグ、ストリング、シューズなど、MUSEの世界観を表現したコレクションでコーディネートが可能



Appendix

— 参考：国内／海外法人の決算期について

日本セグメント(国内事業・海外代理店向け販売)は3月決算、海外現地法人は12月決算であり、連結決算における対象期間は以下のとおり

● 2027年3月期 1Q連結決算の対象期間(会社別)

	2026年												2027年		
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
日本セグメント (国内＋海外代理店向け)				第1四半期 (1Q)			第2四半期 (2Q)			第3四半期 (3Q)			第4四半期 (4Q)		
アジア、北米、 ヨーロッパセグメント (海外子会社)	第1四半期 (1Q)			第2四半期 (2Q)			第3四半期 (3Q)			第4四半期 (4Q)					

ー セグメント別売上高推移

	(百万円)				
	2023年3月期 1Q	2024年3月期 1Q	2025年3月期 1Q	2026年3月期 1Q	2027年3月期 1Q
日本 (国内+海外代理店向け)	11,294	12,974	13,133	15,539	17,481
アジア (子会社)	10,056	11,908	14,685	20,421	23,714
北米 (子会社)	1,292	1,731	1,627	2,185	2,215
ヨーロッパ (子会社)	857	1,191	1,406	1,501	1,851
施設事業	192	185	214	208	205
連結売上高	23,694	27,992	31,067	39,856	45,468

日本セグメント | 日本国内向け及び海外代理店向け販売
(東南アジア、インド、韓国、フランス、オーストラリア 等)

アジアセグメント | 中国・台湾・インド・タイ子会社

北米セグメント | 北米子会社(アメリカ・カナダ)

ヨーロッパセグメント | イギリス・ドイツ子会社

— 地域別(仕向地別)売上高推移

	(百万円)				
	2023年3月期 1Q	2024年3月期 1Q	2025年3月期 1Q	2026年3月期 1Q	2027年3月期 1Q
日本	8,388	8,532	9,206	10,217	10,411
海外売上高	15,306	19,460	21,860	29,638	35,056
アジア地域	11,620	14,982	17,261	23,770	28,430
北米地域	1,292	1,731	1,627	2,212	2,215
ヨーロッパ地域	1,988	2,318	2,534	2,972	3,808
その他	405	426	437	683	601
合計	23,694	27,992	31,067	39,856	45,468
海外売上高比率	64.5%	69.5%	70.4%	74.4%	77.1%

日本	スポーツ施設事業を含む日本事業	ヨーロッパ地域	ドイツ・イギリス・デンマーク・フランス 他
アジア地域	中国・台湾・東南アジア・韓国・インド 他	その他	オーストラリア・中近東・中南米 他
北米地域	アメリカ・カナダ		

この資料に掲載しております当社の計画及び業績の見通し、戦略等は、当社が作成日時点において把握できる情報から得た判断に基づいています。あくまでも将来の予測であり、様々なリスクや不確定要素により、実際の業績と大きく異なる可能性がございますことを予めご承知おきくださいますようお願い申し上げます。